



真剣なまなごしで素振りをする山本さん

輝いています

全国道場少年剣道選手権大会出場

ひと

やまもと かんすけ
山本 莞典 さん

磨き上げた技術で勝利を

礼に始まり礼に終わる剣道。その教えに従い、常に感謝の気持ちを忘れず、「ここまでこられたのは周りの皆さんのおかげです」と話すのは、蔵市南剣道クラブ所属の山本莞典さん（14歳・南町1丁目）です。6月の埼玉県道場少年剣道選手権大会の個人戦で同世代の剣士たちの頂点に立ち、10月に仙台で開催される全国大会に出場します。

「本来の実力が発揮できれば優勝できる」と監督が太鼓判を押すなか挑んだ大会で、最大の山場となったのは3回戦。小学生のときに県大会準決勝で敗れた因縁の相手との再戦でした。試合中盤で鋭い面を繰り出してきた相手の動きを見切り、みごとに返し胴を決めて一本を先取。その後は激しい攻めを続ける相手をつかみ取りました。この試合で勢いに乗った山本さんは、並み居る強敵たちを倒し、小学生のときにはあと一歩で届かなかった個人戦での全国大会への切符を手にしました。

そんな山本さんの武器は鋭い洞察力。相手の攻めを読み取り、それに合った応じ技を使い分けることで、一瞬の隙を突いて一本を取るのが得意な戦法です。そして、長いリーチと、5歳の頃から竹刀を握り鍛え上げてきた体幹から繰り出される電光石火の小手は一目置かれていません。

現在は南剣道クラブで稽古に励む一方、都内の強豪校でも研鑽を積むなど、剣道漬けの日々を送っている山本さん。厳しい練習も仲間とともに乗り越え、中学校でも団体戦の大将を任されています。

来月の全国大会を控え、「埼玉県1位の名に恥じないよう、全力を出し切り優勝を目指します」と、力強く語る山本さん。全国の名だたる剣豪相手に一歩も引かず、磨き上げてきた自らの武器を駆使して一本を積み重ねていくでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.16 —



暁斎筆「吉原遊宴図」絹本着色 掛軸一幅

中央でやり手婆と冷めた面持ちで値段の交渉をするのが今夜の主人公。そんな主人公には構わず、周りでは太鼓持ちがおおげさに踊り、主人公の友人はもろ手を挙げて大喜び。この場に集う遊女たちも上品にほほえみを浮かべて楽しんでいきます。更に衝立の達磨は視線を上にとら

し、「楽しみとは関係ない」とばかりに見て見ぬふりをし、中央の鯛は恨めし気に横たわっています。人、達磨、魚、それぞれの喜怒哀楽が描き込まれ、見るほどにひかれる作品です。



現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 9月1日(金)～10月25日(水)
「かんかん、にっこり 表情」展

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日・毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般320円 中学生～大学生210円
小学生以下105円
(20人以上の団体は要予約)
詳細＝同館(☎441-9780)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

